



漫画くっちゃん昔ばなし
第6章
「第6章「ひらふスキー場のはじまり」」

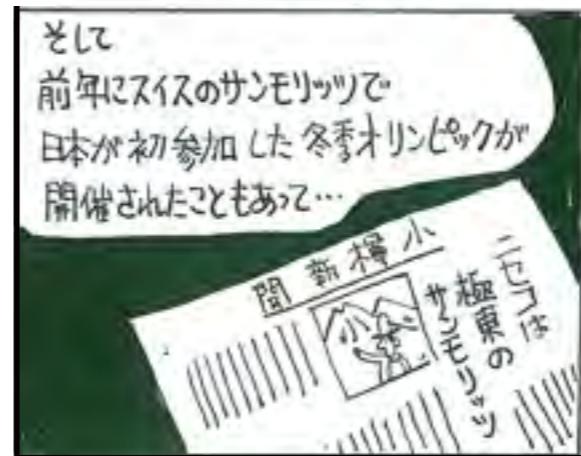
©2020一般社団法人倶知安観光協会

漫画くっちゃんの歴史～その6～ ひらふスキー場の始まり

漫画 石川寿彦



発行
一般社団法人
倶知安観光協会





1931(昭和6)年
 札幌鉄道局も臨時スキー
 列車を仕立てて札幌や札幌
 方面からニセコへのスキー客を
 運ぶようになりました



こうしてニセコアンヌアリは
 倶知安以外からも人が集まる
 山スキーの憧れの場所になっ
 たんだ

1938(昭和13)年札幌の大仏寺スロープ
 (現札幌が丘スキー場)

どんどん
 盛り上がって
 いくね!



1938(昭和13)年には
 全国学生スキー選手権大会が
 ヒラフで開催されます

ハエー！いよいよ
 ひらふスキー場の
 登場だね

うん、でもね、これは
 すでに山田温泉が
 あった現在のグラン
 ヒラフスキー場の斜面で
 大会が開かれたんだ



当然リフトもなく
 ひらふはスキー場とは
 言えなかったんだ

ひらふがスキー場と
 なるのはまだまだずっと
 後のことなんだ

ニセコ高原リフト
 (現ニセコアンヌアリが)
 開設された時なんだ



この大会の2年後、
 1940(昭和15)年2月
 日本は夏と冬のオリンピック
 が開催される予定だったの
 だが...

OLYMPIC WINTER GAMES
 SAPPORO 1940

1940年札幌冬季オリンピック大会のポスター

日中戦争などの
 影響により開催権を
 返上し、中止になって
 しまったんだ



翌年の1941(昭和16)年
 12月8日日本はアメリカとの
 戦争に突入。
 日本のオリンピックはなくなっ
 てしまいます



そして1945(昭和20)年8月、終戦を
 経て戦後の復興を迎えるまでは
 倶知安のスキー場の発展に
 まさに冬の時代でしたが...

やがてその後の戦後復興で
 日本は明るさを取り戻します。
 1956(昭和31)年
 19リフトでの冬季オリンピックでは

猪谷干春が
 男子回転で銀メダル
 を取ります

これは冬季
 オリンピックで
 日本人初の
 メダルです

この大会でオーストリアのトニー・ザイラーが3冠(回転、大回転、滑降)を達成

1959(昭和34)年 トニー・ザイラー主演映画「白銀は招くよ」が大ヒットします

12 Mädchen und 1 Mann

その時俱知安では 1959(昭和34)年1月 高木喬清吉が町長に当選

日本国内でも第一次スキーブームが到来します

高木喬町長は...

マチが発展するためにはまず 企業の誘致と

観光による 新たな町づくりを進めなければ

トニー・ザイラーが 12 Mädchen und 1 Mann

そして町長はトニー・ザイラー主演の松竹映画のロケ地誘致に動いたが 残念!! 山形県の蔵王に決まったか...

そして今度は ファイバーボード工場の 企業誘致を決定!!

無尽蔵にあるこのクマ笹

地場産業の確立に役立った35

ファイバーボードとは 昭和30年代のテレビの裏側の板。小さな穴が開いた放射板です

植物繊維を接着剤で混合成形させた 圧縮成形板なので 加工も簡単。さらに 高品質の質素材として 多くの需要がありました

日東商船のタンカー

当時は需要が増えていたことから 増産を目指して新工場と 笹を運ぶ索道の建設場所を 依頼されていたのが大川修作という人でした。

彼は植物繊維の有効利用を 研究する大川研究所の社長の息子でした

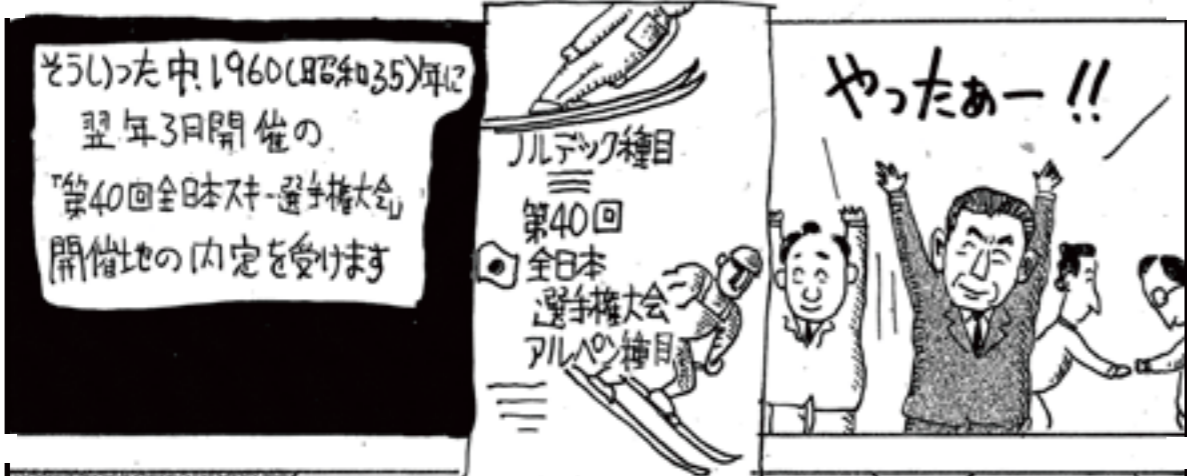
是非調査をお願いします!

日東商船社長の 竹中岩の 依頼を受け

1961(昭和38)年2月 俱知安町六郷(現在の風土館の場所)に 北海道ファイバーボード工場が 設立されます。そして支店には 兄の大川仁吉が着任します。

彼はニセコワイスの山に運搬索道を 設置することを 考えていました

室蘭港に向かう胆根線の 国鉄俱知安駅に近い 工場に運ばば都合が良い





宿泊施設の不足

まともな宿泊施設といえば



2つ合わせれば収容人員は200名にもとどかなかった

他にも大会に合わせて急ごしらえて7軒の農家が民宿を始めただけ



馬場からのアクセスが悪い

町外からの主な交通手段は国鉄比羅夫駅からの国鉄バスのみ



それでも次第にスキ-客のリフトへの理解が深まり、さらに山向ってリフトの増設が求められます。

もっと上に行くリフトが欲しいのにはー

しかしリフト事業は陸運局の許可制になり、

さらに1962(昭和37)年からニセコ地区も国定公園にされたんだ

いろいろ制約が増えたんだ

二つの会社がしのぎを削ったことで、少しずつスキ-場の経営も上向きです。さらに1969(昭和44)年中山峠の舗装道路が開通、札幌方面からのアクセスが良くなり、バス、乗用車でのスキ-客が急増します

そうこうして、親会社の日東商船は商船不況のため1964(昭和39)年大同商船と合併して「ジャパンライン」になります。

大川仁吉支配人はリフトの増設の資金提供を依頼しますが

ジャパンライン側は無理ですな

1972(昭和47)年には札幌オリンピックが開催され...

仕方ない!! こうなったら自分たちでやるしかない!!

大川仁吉
ニセコ高原観光の自己資金でリフト増設を繰り返し、その運営を指揮し、1984(昭和59)年まで支配人をつとめる

こうして、ひらふはニセコ高原観光と新たに設立されたサンモリッツリフト(アルペンコース)との二社競合体制になります。

一方、1965(昭和40)年、地元の有力者が新たなリフト架設を申請したんだ!

ニセコ高原観光
ひらふスキー場
サンモリッツ

1987(昭和62)年東宝映画「私をスキーに連れてって」が公開され、空前のスキーブームに

ニセコアンヌプリ国際スキー場 (1972年開設)

ニセコ東山スキー場(現ニセコビルッジ) (1982年開設)

1985年ニセコ高原観光はニセコ車庫リフト、2004年ニセコ車庫リフトがサンモリッツリフトを経営統合し「ニセコマウンテンリゾート」をオープン

花園エコー (1992年オープン)

2001(平成13)年頃からはオーストラリアからのスキ-客がいわゆる「オーストラリア」に魅せられてやってくるようになります

そして2011(平成23)年にはヒラフでのスキ-場オープン50周年を記念し、ニセコグランヒラフマウンテンセンターがオープンします。



漫画くっちゃん昔ばなし
第6章「ひらふスキー場のはじまり」
2020.5.08

発行：一般社団法人 倶知安観光協会
監修：倶知安風土館
漫画：石川寿彦
編集：有限会社エーピーアイ
©2020一般社団法人 倶知安観光協会